

## 2017年1月パナマ政情（内政・外交）

### 1 内政

#### （1）バレーラ大統領の施政方針演説

2日、議会後期会期開会にあたり、バレーラ大統領は、汚職撲滅への取り組み、メトロ2号線及び3号線を含む首都圏都市交通整備計画等の政権成立後約30ヶ月の政策の成果、並びに社会保険庁等の組織改革、選挙法改正及び憲法改正へ向けた作業工程表の作成等今後の施政について施政方針演説を行った。

#### （2）選挙裁判所判事の選出

3日、議会において、昨年末に任期終了を迎えたエラスモ・ピニージャ選挙裁判所判事の後任として、与党パナメニスタ党と野党民主変革党（CD）の推すアルフレド・フンカ氏が選出され。

#### （3）内務大臣及び内務次官の交代

3日、大統領府は、内務大臣及び内務次官の交代を発表した。新大臣及び新次官の氏名以下の通り。なお、今般の人事異動は、いずれも1月12日付（なお、エンリケス前内務大臣は、駐スペイン大使に転出）。

##### ア 内務大臣

マリア・ルイサ・ロメロ（前職：内務次官）

##### イ 内務次官

カルロス・ルビオ（前職：人材開発庁副長官）

#### （4）GESEグループのライセンス延長

昨年5月、米財務省海外資産管理局（OFAC）が、ワケッド・グループ関連企業の米国における資産凍結及び取引を禁止した件で、6日、OFACは、当地ラ・エストレージャ・デ・パナマ紙及びエル・シグロ紙を発行するGESEグループへのライセンスを7月13日まで延長する旨発表した。右発表により両紙は、廃刊を免れた。

#### （5）伯オデブレヒト社による贈賄事件

検察庁は、本件の捜査のため特別チームを設置した。これまでにマルティネリ前大統領の子息、バレーラ・パナメニスタ党総裁夫人の親族が捜査対象となっている。

### 2 外交

#### （1）サイン・マロ副大統領兼外務大臣のダボス会議出席

17～20日までスイスで開催されたダボス会議にサイン・マロ副大統領兼外務大臣が出席した。

（2）24日及び25日、サイン・マロ副大統領兼外務大臣は、ドミ（共）で開催された第5回ラ米カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会合に出席した

#### （3）トルコにおける銃乱射事件

1日、政府は、トルコのイスタンブールで起きた銃乱射事件を強く非難し、犠牲者への弔意を表明する外務省プレスリリースを発表した。

(4) カナダにおける銃乱射事件

30日、政府は、カナダのケベックで起きたモスクへのテロ行為を非難し、加国民及び同政府に対し弔意を表明する外務省プレスリリースを発表した。